



Go West!

佐賀県立唐津西高等学校

学校だより NO.5 R4.06.15

【建学の精神】朝（あした）に希望 タベに感謝

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

## “問い”を見つける ー学びを愉しむー

6月に入ってようやく授業が本格化しました。いいよいよ「思考」の時です。梅雨は最も生命力が強まる季節です。生物としての人間である我々も今こそその力を発揮しましょう。

時に皆さん、勉強が「作業」になっていませんか。「思考」のない学びは苦役以外の何物でもありません。「なぜ (Why)」と「どのように (How)」を意識して、考える訓練を重ねてください。きっとその“問い”は自分にワクワクを与えてくれるはずです。

例えば、単に年号を暗記するのではなく「その時代、秀吉が検地・刀狩をしたのはなぜなのか」「秀吉はどのような世の中を作ろうとしたのか」というように。



さて、このような“問い”を立てることは日常生活の中でこそ鍛えられるものであり、自分で立てた“問い”こそが自分を高めてくれます。自己肯定感、学習意欲の向上につながるのです。そこで2つの例を紹介しましょう。

「筆記用具の数と学力って関係あるのかなー」、「小さいころにピアノを習っていた人って賢い人が結構多くない？」。



文科省HPより

具体的な、クラスメートの登校時刻のデータを基に「遅刻ギリギリにくる生徒の方が小テストの点数は高い」という説を立証し、生徒指導の先生に見せたのだそうです。面白いですね。それが普遍的な真理であるかどうかは別として…。(日本経済新聞 令和3年10月6日記事から)

そんな日常生活の中で沸いた他愛もない疑問の中から、大阪府のある高校生は「数学や英語の小テストの点数と生活習慣の関係」についてあれこれ仮説を立ててみながら、その裏付けに必要なデータをPCのアンケート機能を使って収集してみたそうです。

そして集まったデータをPCで計算処理し相関関係をグラフ化。

また、三重県のある高校生は、三重県が“車の一時停止率ワースト1位”であるという事実を受け「信号機のない横断歩道で手を上げると車はどれくらい止まってくれるか」という“問い”を立て「手上げ横断」の効果を検証する実験を行いました。



日経新聞記事

人や車の往来が多い夕方の時間に市内2か所で「手を挙げた場合」と「棒立ちの場合」と「スマートフォンを見ていた場合」の3パターンで、通行した車の台数のうち止まってくれた数を数え、停止率を算出したそうです。そしてその結果をまとめたポスターを県警が活用しているとのことでした。まさに地域貢献！（同紙10月5日記事から）

両方ともその発想のおもしろさに思わずにやりとしてしまいました。そういう“問い”こそ学ぶことの愉しさを味わわせてくれるものです。

日常はいろいろな疑問(WhyとHow)に満ち溢れている。皆さんも素朴で斬新な切り口から日常をとらえなおすおもしろさを味わってほしいと思います。

## 6・23 8・6 8・9 8・15 を語り継ぐ – “ちむどんどん”の理由は如何–

この数字が何を表しているか分かりますか。

順に、沖縄慰霊の日、広島原爆の日、長崎原爆の日、終戦の日です。どれも日本にとっては忘れてはならない大切な日です。



しかし、6・23 沖縄慰霊の日をしっかりと受け止めている日本人はそう多くはないのではないのでしょうか。

おびただしい数の住民を巻き込んだ地上戦が繰り広げられた沖縄で組織的な戦闘が終わったとされる日です。今年は沖縄の施政権が日本に返還されて50周年の節目の年です。NHKが朝の連続ドラマをはじめいろいろな番組で沖縄を題材にする意図もここにあります。

沖縄戦に限らず、広島、長崎の原爆で犠牲になった方の延長線上に私たちは生きています。そのことを想像することが私たちの責任です。そしてそれをジブンゴトとして語り継ぐこと。もし語り継がなかったら、それはなかったことになってしまいます。その意味で戦争責任は今を生きる私たちにもあるのだと言えます。

人と人との<sup>ちゆうたい</sup>紐帯を大事にする西高生のみなさん。沈む夕日を見ながらしばし物思いに<sup>ふけ</sup>耽ろうではありませんか。

## 「ねえ、お姉ちゃん。ここ、どうするの？」 – ボランティアに学ぶ –

6月4日(土)～5日(日)、1泊2日で「波戸岬少年自然の家ボランティア講座」が開催されました。本校からも9名が参加。大学生や社会人などと一緒に施設ボランティアとしての資質や技術を学びました。

2日間のプログラムの中では、危険予測ディスカッションや小学生とのクラフト活動など様々な交流活動を体験。

参加者からは「何でもしてやるのが“ボランティア”なのではなく、その過程が大事だということ学びました。講義に参加して思いましたし、翌日のガラスアートで子どもたちから『どうすればいいの』という質問を受けるたびにそれを強く感じました。実り多い2日間でした」という声が聞かれました。



製作を見守る本校生

体験をとおした学びは生涯忘れません。いい勉強ができたようです。

### 【6月後半の主な行事】

- 6月16日(木) 歯科検診(2年)
- 17日(金) 公務員講座(3年)
- 18日(土) チャレンジセミナー(全学年)
- 19日(日) 北高通信・毛筆書写技能検定
- 23日(木) 期末考査(28日(火)まで)
- 28日(火) スクールカウンセラー(午後)
- 30日(木) 内科検診・主権者教育(全学年)



“ハナコフェア”で比田井和孝氏の講演を聴講。その熱量に圧倒。内容に感動。感謝の気持ちをもって前向きに自分を出し切ろうと思えたひと時でした。